

上越市ガス水道局所管工事の談合をめぐる裁判開始

6月25日は上越市ガス水道局所管の本支管工事をめぐる談合損害賠償請求訴訟の初公判でした。上越市からは30人ほどの人が新潟地裁まで傍聴に出かけました。傍聴



席には報道関係者まで含めると50人近い人がいたように思います。私が裁判を傍聴するのは20数年ぶりです。しかし、原告としての傍聴は初めてです。

開廷前に報道関係者の写真撮影が2分間許されました。裁判所員の「30秒経過」「1分経過」「残り45秒」など声は初めて聞きました。この日は被告側はどういう事情か知りませんが欠席でした。開廷後、裁判長と原告側の弁護士との間でいくつかのやりとりが行われ、その後、原告団副団長の鷺澤和省さんが意見陳述しました。鷺澤さんは、元上越市入札監視委員会のメンバーでした。今回の提訴に至った経過や思いを語りました。その中で、「一昨年12月の市議会でもガス水道局の談合疑惑が発覚し、それを契機に、多くの市

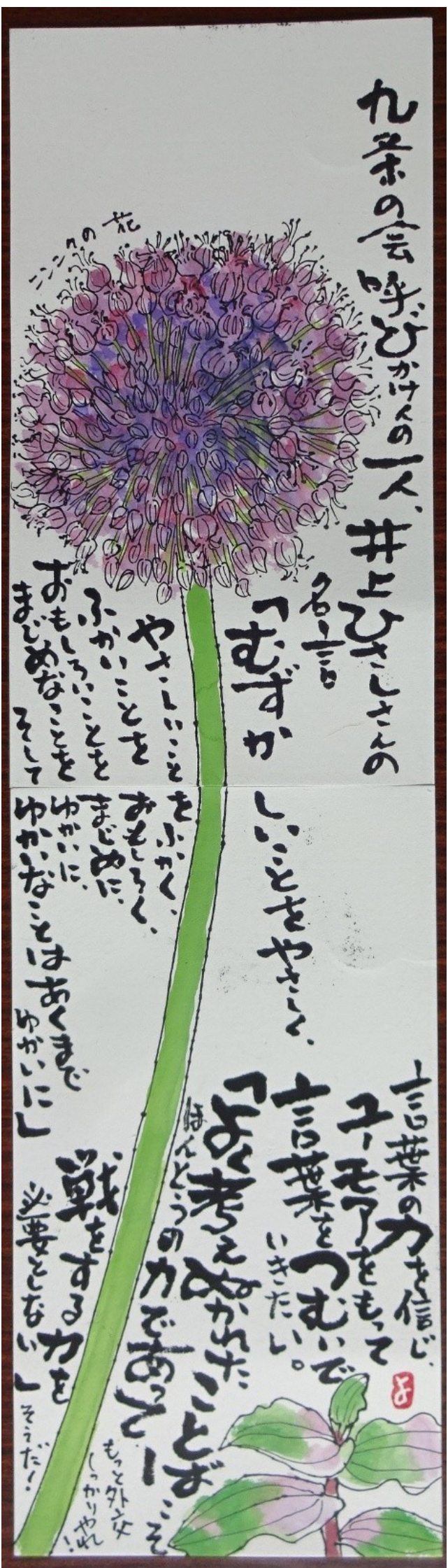
民団体等とともに、談合疑惑の解明の気運が高まり、私自身も様々な活動を展開しながら解明に努めてきた。ところが、上越市



【トリアシショウマ】ユキノシタ科の多年草。漢字で「鳥足升麻」と書きます。若芽は山菜として食べられます。ちょうど今、林の縁や谷筋で白い花を咲かせています。山間部だけでなく、平場にもあります。吉川区にて6月下旬撮影。

に努めてきた。ところが、上越市無は判断できない』『公正取引委員会へ通知し、その事実を解明している段階であるので、上越市職員措置請求は棄却する』というものがあった。このような消極的な姿勢は許すことができない。私は、なんととしても、この疑惑を解明し、市民の貴重な税金の無駄遣いを無くしたいという思いがつのべ、原告として提訴した」とのべました。

裁判後は記者会見(上の写真)でした。弁護団の齋藤弁護士は「2業者の証言は重い。(談合にかかわる)資料もたくさんある」とのべ、裁判勝利にむけての思いを語りました。マスコミ各社からは、「告発した業者に対する圧力があつたとして市に働きかけを行つたが、回答はあつたのか」「公取委への通知がなされていく中で何故裁判に踏み切ったのか」などの質問が出されました。齋藤弁護士は「業者が数年前に公取委に情報提供しているにもかかわらず、動きが見られない」「市からの回答はない」と答えていました。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1714 2015.7.5
発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

ちようどいいタイミングというか、運がよかったです。伯母の家を訪ねた日は、伯母が介護老人福祉施設に入所する三日前でした。自宅で会う最後の機会となるかも知れないときだったのです。

部屋に入ると、伯母はベッドに座ってじつとしていました。一緒に入った従弟が、「誰だかわかるかい」と伯母に訊きました。物忘れが相当進んでいると聞いていたので、駄目で元々と思っていたのですが、数秒後、伯母はハッキリした口調で「尾神だ」と言いました。よかったです。尾神は母が嫁いだところであり、私のふるさとです。伯母は私が何者かをちゃんと憶えていてくれたのです。

私が誰かわかれば、その次に私がやることは決まっています。伯母が喜ぶであろうことをする、具体的には私の母についての情報をたっぷりと伝えることです。伯母のすぐ傍へ行って、私はポケットからスマートフォン（多機能携帯電話）を取り出しました。このなかにはここ数カ月間に私が撮った写真がたくさん入っています。もちろん私の母の最近の写真もあります。これらを見てもらおうと思っただけです。

最初に見せたのは、近くの県道からわが家へと入る道の入り口で、三輪自転車から降りて、引いている母の写真です。この時、私は町へ出かけようとして、乗用車を一時停止させていました。母は、「何をしているのか」といった表情で、私の乗用車を見ていました。そこをパチリとやっただけです。伯母は、私に、「バチャ、自転車に乗っているのかえ」と訊いてきました。驚いたのでしょうか、九一歳にもなっている母ですからね。私は、すぐに「そいが、まだ自転車に乗ってるよ」と答え、次の写真をさがしました。

伯母に見せた二枚目の写真も三輪自転車とともに写っている母の写真でした。伯母は、「ほっかむりして何しているのだ」と言いました。「笹の葉採りだこてね」と言いながら伯母に詳しく説明しました。笹の葉採りのとき、母はいつも三輪自転車に、採った笹の葉を積みこんで運んでいます。写真には、母がほっかむりをして、大量の笹の葉を抱きかかえ、自転車の後部にある大きなカゴに入れようとしている姿が写っていました。母が仕事をするときには家の中でも外でもほっかむりをしてることが多いのです。伯母は母のほっかむり姿が気に入ったようでした。

三枚目の写真は大きなグミを食べている母です。伯母は、「こりや、グミか」と言っただけです。伯母も子どもの頃、グミを食べたことがあるのでしょうか、口には出さず、伯母は母のグミにまつわる思い出が浮かんだのかも知れません。

伯母には母の写真だけでなく、野の花の写真も見せました。春から撮った写真にはヤマツツジやササユリなどの写真がありましたが、やはり、いま咲いているものもいいと思います。ピンク色のほわっとした花がいくつも咲いているものを選び、伯母に見せると、「なんてがだ」と花の名前を訊いてきました。「コシジシモツケソウさつてね、おまんだの川のそばにも咲いてるよ」と答えると、信じられないような顔をしていました。「きれいだろね」と私から言うと、伯母はうなずきました。

家に戻ってから、「こんだ、板山のバチャ、施設に入るが」と母に話しました。母は、「そりや、ほらいねえな。忘れっぽになっただか」と言っただけでさみしそうな顔をしました。伯母が完全に「忘れっぽ」にならないうちに、母を連れて伯母を訪ねようと思います。バチャ、待つてくれないや。

「TPPはこれからが正念場」と山田元農相

6月28日、山田正彦元農相の講演会が浦川原コミュニティセンターで行われ、50人ほどの人たちが真剣に聴き入りました。

1時間ほどの講演の要旨を数行で

まとめるとすれば、以下のようになります。

新聞では7月にもTPP交渉が合意して終わりのように報じられているが、そうではない。アメリカでの手続きは最速でも10カ月はかかる。それが大統領選がはじまるところまでずれ込めばもう前には進まない。たたかいはこれからが正念場だ。合意すれば農業はどうなるか。米韓FTAを読んでほしい。韓国を見ればよくわかる。TPPは単なる農業問題ではない。医療も雇用も教育もおかしくなる。アメリカで軽い脳梗塞を起こし、2日間入院した人がなんと308万円も請求されたという。金持ちでないと医療は受けられない。教育もそうだ。格差社会がますます進むことになるだろう。中山間地では村が無くなること必至だ。いまこそ百姓一揆をやると



きだ。

穏やかな口調は牛飼いだった人ならではのものでしょうか。それでいながら、親分肌のところもある。民主党政権時代の農相だった人ですが、民主党のTPP賛成論者をバサバサ切り、遺伝子組み換えやホルモン剤に反対し、家族農業主体の地域農業の確立を訴えました。安保法制に反対し、憲法を守るために保革を超えた統一戦線内閣が作られるときはこの人が農相に適任だと思いましたね。

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	6月24日(水)	7月1日(水)
上越南消防署	0.030	0.050
上越北消防署	0.040	0.057
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.053	0.060
東頸消防署	0.053	0.060
高士分遣所	0.043	0.050
名立分遣所	0.057	0.060